《入選》

だれもがふくしをもっている

河瀬小学校　４年
中元（なかもと）　悠翔（ゆうと）　さん

ぼくは、四年生でふくしについての学習をしています。ぼくは、ふくしについて学習する前は、ふくしという言葉の意味も、どんなことかも分かりませんでした。分からなかったので、どんなことを学ぶのだろうとドキドキワクワクした中でこの学習にのぞみました。

ふくしの学習で心に残った体験を二つしょうかいします。一つ目は、手話体験です。手話体験には、ろう者の方がお二人、通やくさんがお二人来てくださいました。最初、耳の聞こえない人は、聞こえる人と同じような生活をしていると思っていました。けれどろう者のお二人のお話を聞いていると、便利な道具を使って生活されていることが分かりました。例えばその道具の一つに、お客さんが来たらインターホンから家の中にある機械に伝わってライトが光るというのがあるそうです。ろう者さんのためになる道具がいろいろあると、ろう者さんにとってはうれしいだろうと思いました。

心に残った体験の二つ目は、アイマスク体験です。アイマスク体験には、社会福祉協議会の方が来てくださいました。アイマスク体験をしてみると見えないのがこわかったし、お金を出すときなど見えないとこまることがたくさんあると思いました。しかし、お札のまわりに印があるなど、目が見えない人のために便利な工夫があることが分かりました。目が見えなくてこまることがあっても、それにこたえるような道具や工夫があるから豊かに生活できているのだと思いました。目の見えない人や耳が聞こえない人のこまることに向き合っていて、一人一人のふくしを大切にしていていいと思いました。

これからは、学習したことをいかして、耳が聞こえない人や目が見えない人にかぎらず、車いすに乗っている人や赤ちゃんがいる人などを見かけたら、こまっている人に対して、協力したいです。そして、だれもが平等で幸せにくらせるように、みんなのふくしを大切にしたいです。